

日本学校教育学会

第34回研究大会 プログラム

日本学校教育学会

第34回 研究大会

会 場
金沢学院大学



基調講演

「新時代に向けての

教育改革を考える」

講師 国立教育政策研究所所長
常盤 豊氏

2019年
8月3日(土)
8月4日(日)

8月3日(土)

9:00 ~ 11:50 自由研究発表
12:40 ~ 13:25 定期総会
13:25 ~ 13:45 一関市支援事業報告
14:00 ~ 15:00 基調講演
15:15 ~ 17:20 ミニシンポジウム

8月4日(日)

8:50 ~ 10:20 自由研究発表
10:30 ~ 12:30 課題研究



8月4日(日)
13:00~14:00

文部科学省「トビタテ!留学JAPAN
日本代表プログラム 高校生コース」
北陸地区発表会を開催します
於) 金沢学院大学講堂

ミニ・シンポジウム1

【新時代を意識した学校教育】
～共生社会を創るための
学校教育の在り方を問う～

★シンポジスト★

上越教育大学 釜田聡 教授 他

ミニ・シンポジウム2

【新時代の教職員に
求められる資質・能力】
～学校教育・事務職員の立場から～

★シンポジスト★

日本大学 藤平敦 教授 他

ミニ・シンポジウム3

【新時代の言語教育】

★シンポジスト★

文部科学省 初等中等教育局
直山木綿子 視学官 他

主催 日本学校教育学会

共催 金沢学院大学

後援 金沢市教育委員会 JICA 北陸 北陸新聞社 共創型対話学習研究所

大会実行委員長 米澤 利明 (金沢学院大学)

大会事務局

〒920-1392 石川県金沢市末町 10

金沢学院大学文学部教育学科

小嶋 祐何郎 研究室 (TEL 076-229-8780)

目 次

○大会ご挨拶・・・・・・・・・・	2
○研究大会要項・・・・・・・・・・	3
○交通のご案内・大会会場配置図・・・	5～7
○自由研究（第1日 8月3日）・・・・	10～17
○基調講演・・・・・・・・・・	21
○公開ミニ・シンポジウム・・・・・・・・	23～24
○情報交換会・・・・・・・・・・	25
○自由研究（第2日 8月4日）・・・・	28～32
○課題研究・・・・・・・・・・	33

日本学校教育学会第34回大会の開催にあたって

日本学校教育学会第34回研究大会準備委員長

米澤 利明（金沢学院大学）

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察いたします。

この度、日本学校教育学会第34回研究大会を金沢学院大学で開催する運びとなりました。猛暑の中、全国よりご参加いただく皆様方に厚く御礼申し上げます。多くの皆様方をこの「伝統」と「現代」を繋ぐ 歴史都市金沢にお迎えすることができますことを心から喜んでおります。

本学会は、大学・研究機関の研究者と多数の現職教員等の方々と構成された学会であり、当初より理論と実践の緊密化さらには統合を目指す研究を特色としてまいりました。

本大会では、国立教育政策研究所所長常盤豊氏をお招きし、基調講演「新時代に向けての教育改革を考える」をご講演いただき、それを受けて3つのミニ・シンポジウム、「ミニ・シンポジウム1 新時代を意識した学校教育～共生社会を創るための学校教育の在り方を問う～」「ミニ・シンポジウム2 新時代の教員に求められる資質・能力～学校教育・事務職員の立場から～」「ミニ・シンポジウム3 新時代の言語教育」を展開する予定です。本学会が目指しているところの教育研究者と現職教員、さらに学生等も交えまして、共に熱く語り合いながら、改めて21世紀の教育の姿を希求したいと考えております。

課題研究では、本学会がこれまで進めてきた「教師教育の高度化」の実現のための教職大学院の在り方を追究した研究の3年間の集大成としての報告を予定しております。また、初の試みである本学会と地方自治体との共同事業について、その成果として「一関市支援事業報告」を予定しております。さらに、会員の皆様より55件（14分科会）の自由研究発表があります。分科会での熱い議論が交わされることを期待しております。

スタッフ一同、有意義な学会となりますよう精一杯努めてまいる所存でありますが、学生主体の運営スタッフですので不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思います。何卒、ご容赦の上、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本研究大会の開催につき、金沢市教育委員会、JICA北陸、北國新聞社、共創型対話学習研究所よりご後援等のご支援をいただきました。また、さまざまな機関・団体から、ご挨拶や、広告掲載等のご協力をいただきました。関係各機関・各位に対しまして衷心より御礼を申し上げます。

最後になりましたが、8月3日・4日の両日、本学を会場として使用することを許可していただき、併せて共催を賜りました金沢学院大学の秋山稔理事長・学長をはじめ大学関係者各位に深甚なる謝意を表させていただきます。ありがとうございました。

令和元年8月

日本学校教育学会第 34 回研究大会開催要項

1. 大会期間及び会場

【大会期間】 2019 年 8 月 3 日（土）・4 日（日）

※ 8 月 2 日（金）16：00～18：00 に理事会開催

【会 場】 金沢学院大学（〒920-1392 石川県金沢市末町 10）

（理事会会場：香林坊ラモーダ 9 階 金沢学院高校サテライト教室）

〒920 - 0961 石川県金沢市香林坊 2 丁目 4-30）

2. 大会日程

【第 1 日 8 月 3 日（土）】

8：30～	9：00～	11：50～	12：40～	13：25～	14：00～	15：15～	17：05～	18：20
9：00	11：50	12：40	13：25	13：45	15：00	16：55	17：20	～
受 付	自由研究 発 表	昼食休憩	定期総会	一関市支援 事業報告	基調講演 （※1）	ミニ・シン ポジウム （※2）	シンポジウ ムまとめ	19：50 情報 交換会

※1 講師 国立教育政策研究所 所長 常盤豊 氏

題目 「新時代に向けての教育改革を考える」

※2 ミニ・シンポジウム

【第 1 会場】「新時代を意識した学校教育 ～共生社会を創るための学校教育の在り方を問う～」

（シンポジスト） 武田さやか氏（独立行政法人 国際協力機構 北陸センター）

北 洋輔氏（石川県白山市立蝶屋小学校 教諭）

釜田 聡氏（上越教育大学 教授）

【第 2 会場】「新時代の教職員に求められる資質・能力～学校教育・学校事務職員の立場から～」

（シンポジスト） 嶋 耕二氏（石川県教育員会 学校指導課担当課長：小中学校教育
グループリーダー）

西念佑馬氏（金沢学院大学 財務部部長補佐 兼教職センター課長）

藤平 敦氏（日本大学文理学部教授/教職センター副センター長

前 文部科学省教育政策研究所総括統括官）

【第 3 会場】「新時代の言語教育」

（シンポジスト 直山木綿子氏（文部科学省 初等中等教育局 視学官及び、外国語担
当教科調査官）

紺村由紀子氏（石川県白山市立東明小学校 校長）

荒納 郁美氏（金沢大学附属高等学校 教諭）

【第 2 日 8 月 4 日（日）】

8：30～	8：50～	10：30～	12：30	13：00～14：00
8：50	10：20	12：30		文部科学省「トビタテ！
受 付	自由研究 発 表	課題研究	大会終了	留学 JAPAN 日本代表プロ
				グラム高校生コース」
				北陸地区発表会

3. 大会参加費

○正会員・臨時会員

事前振り込み 4,000 円（7 月 12 日振込分まで） 当日 5,000 円

○院生会員 3,000 円

○学部生会員 1,000 円

●情報交換会費 5,000 円 ●8 月 3 日昼食代（飲み物含む） 1,000 円

4. 参加費申し込み

3. に記載した参加費等は銀行振り込みとなります。振込名義は大会事務局で確認できるよう、参加させる方の名義でお願いいたします。振込金額は、大会参加費・情報交換会費・第 1 日目昼食代を別々にせず、合計の金額でお願いいたします。

（例：正会員で懇親会参加、弁当注文の場合は、4,000 円+5,000 円+1,000 円の計 10,000 円となります。）

【振込先銀行名】	ほっこく 北國銀行 小立野支店 店番 1 2 1
【種別】	普通
【口座番号】	2 9 8 8 9
【口座名義】	日本学校教育学会第 3 4 回研究大会

※振込手数料はご負担願います。

5. 自由研究発表について

会場には、ノートパソコン・プロジェクターをご用意いたします。発表者におかれましては、事前に動作確認をしていただきますようお願いいたします。

個人研究発表（登壇者が 1 名）・・・発表 20 分 質疑応答 10 分

共同研究発表（登壇者が 1 名）・・・発表 20 分 質疑応答 10 分

共同研究発表（登壇者が複数）・・・発表 30 分 質疑応答 10 分

6. その他（送迎シャトルバス、食事について等）

○金沢駅から会場までの専用バスを以下の時間帯と経路で運行いたします。どうぞご利用ください。

（金沢学院大学のバスです。）

【8 月 3 日】

（往路） 8：00 金沢駅西口発（係りの者がお待ちいたします。） 金沢学院着

（復路） 17：30 頃 シンポジウムまとめ終了後。会場発、KKR ホテル金沢（情報交換会場）経由
金沢駅西口まで。

【8 月 4 日】

（往路） 8：00 金沢駅西口発（係りの者がお待ちいたします。） 金沢学院着

（復路） 12：30 頃 大会終了後。会場発、金沢駅西口まで。

（途中ご希望がございましたら近江町付近経由します）

○食事について

会場付近には飲食施設がありません。8 月 3 日は必要な方はお弁当をお申し込みください。8 月 4 日は学内の食堂を利用することができます（オープンキャンパスが開催されておりますので、多数の高校生が利用いたしますのでやや混雑するかもしれません）。

交通のご案内

【公共交通機関をご利用の場合】

■専用シャトルバス（JR 金沢駅西口 ⇄ 金沢学院大学）

学会が開催される **8/3(土)4(日)** は、JR 金沢駅西口と金沢学院大学を結ぶ学会専用のシャトルバスが運行されますのでご利用ください。両日とも行きはこの1本のみとなります。

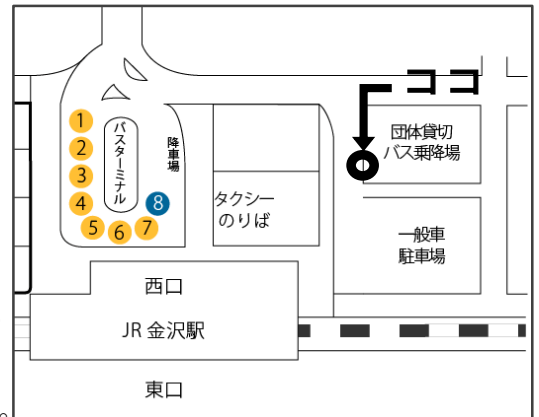
※専用シャトルバスの発車時刻

【行き】両日とも**午前8時00分**に JR 金沢駅西口を出発します。

【帰り】**3日**はシンポジウム終了後、本学を出発、
情報交換会場を経由し、JR 金沢駅西口に向かいます。

4日は課題研究終了後、本学を出発、直接 JR 金沢駅西口に向かいます。

【専用シャトルバスの発着場所】



■路線バス

・JR 金沢駅東口（3番、7番乗り場）から北陸鉄道バス「東部車庫行き」乗車で約 35 分かかります。ただし、終点下車後急な坂道ですので、できるだけ金沢駅西口午前 8 時発の専用シャトルバスをご利用下さい。なお、タクシー利用の場合は、約 3,800 円（金沢駅～金沢学院大学）がかかります。

■JR 金沢駅まで

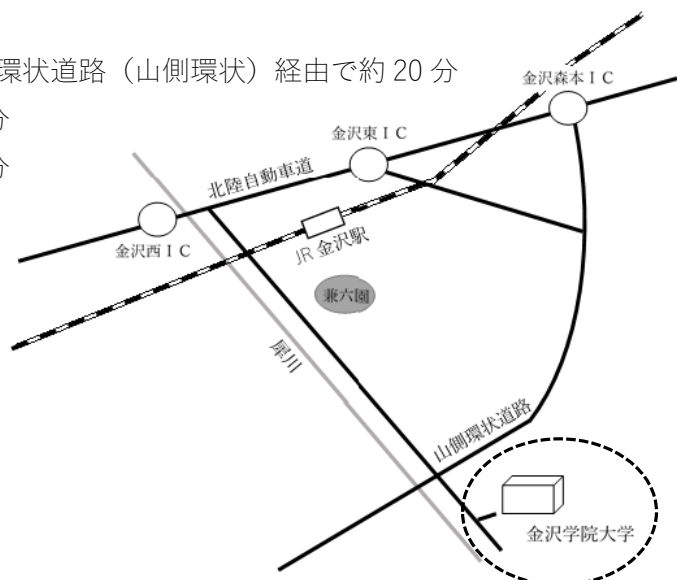
出発地	所要時間
東京	2 時間 30 分（北陸新幹線）
大阪	2 時間 40 分（特急）
名古屋	2 時間 23 分（特急）

■飛行機 [小松空港]

・小松空港より JR 金沢駅行きの連絡バスが運行しております。（約 55 分）

【お車をご利用の場合】

- ・北陸自動車道「金沢森本 IC」から金沢環状道路（山側環状）経由で約 20 分
- ・北陸自動車道「金沢東 IC」から約 30 分
- ・北陸自動車道「金沢西 IC」から約 40 分



大会会場配置図(8/3~4)



【定期総会】

【基調講演】

4号館1階 講堂

【シンポジウム1】

4号館1階 講堂

【シンポジウム2】

4号館1階 415

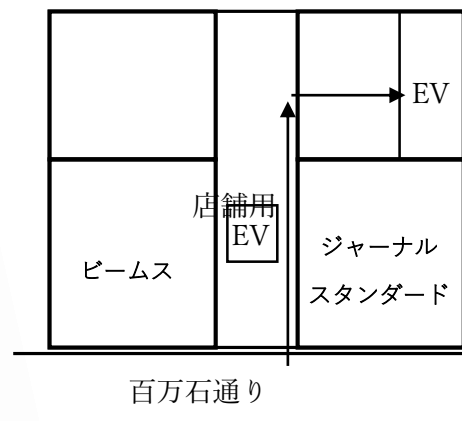
【シンポジウム3】

4号館1階 416

理事会会場 (8/2)

場所：香林坊ラモーダ 8階

※百万石通から通路に入り、店舗用エレベーターを通り過ぎ、奥の入口右のエレベーターをご利用ください。



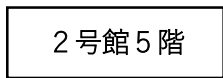
【大会受付】

2号館1階

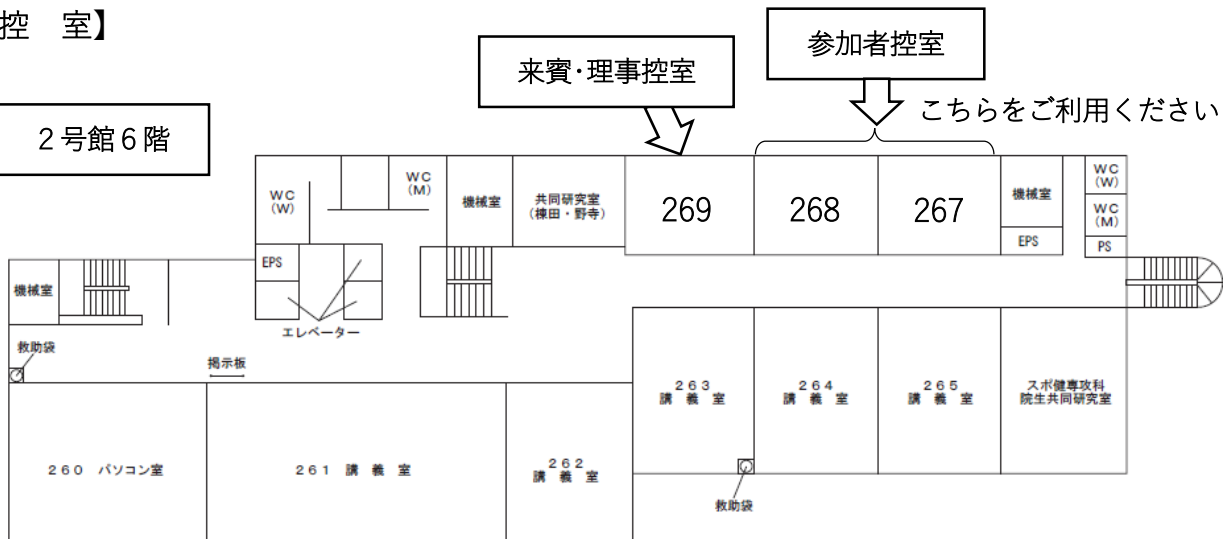
【分科会会場】

2号館4階・5階

2号館4階



2号館6階



大会 1 日目
8 月 3 日 (土)

自由研究発表1-(1)

司会 和井田 清司(武蔵大学)
山口 修司(松江市立雑賀幼稚園)

1) 9:00～9:30

教師の職能発達過程における困難克服過程でのストレスコーピングの影響
—教師と児童生徒との人間関係に着目して—
篠原 里実(上越教育大学大学院・院生)

2) 9:30～10:00

小学校高学年における教科担任制導入に関する事例研究
—小学校教員と卒業生へのインタビューを通して—
元木 廉(元 放送大学大学院・院生)

3) 10:00～10:30

昭和40年代の神奈川県における小学校教科担任制に関する一考察
垣崎 授二(横浜市立豊田小学校)

4) 10:30～11:00

斎藤喜博の追い求めた授業
—子どもの無限の可能性と教師論に注目して—
中山 博夫(目白大学)

5) 11:00～11:30

指導主事の職業的社会的な研究の現状と課題
篠原 清夫(三育学院大学)

自由研究発表1-(2)

司会 根津 朋実(筑波大学)
田邊 俊治(金沢学院大学)

1) 9:00~9:30

児童の他者に対する「賞賛」が生まれる場についての考察
渡邊 信隆(上越教育大学大学院・院生)

2) 9:30~10:00

笑いとマインドフルネスによるレジリエンスの育成の可能性
田島 弘司(上越教育大学)

3) 10:00~10:30

保育者養成教育における「環境」教授についての一考察
—諸学説の変遷に着目して—
奥泉 敦司(金沢学院大学)

4) 10:30~11:00

学校教育におけるAI(人工知能)の応用と課題
—その実践と教育学の考察—
張 建(東京電機大学)

5) 11:00~11:30

Society 5.0に向けた学びの在り方の変革
—論理的、批判的、創造的に考えるスキルの育成—
服部 孝彦(大妻女子大学)

自由研究発表1-(3)

司会 和井田 節子 (共栄大学)

小林 広昭 (横浜市立山下みどり台小学校)

1) 9:00～9:30

公立小・中学校教師の長時間勤務解消に向けた業務改善

山中 樹 (上越教育大学・院生)

2) 9:30～10:00

学校の業務改善に対する教員の意識の実態

—A県B市における学校管理職及び教員への調査結果を踏まえて—

鈴木 久米男 (岩手大学)

3) 10:00～10:30

教員の資質向上を図るためのミドルリーダーの役割について

—長野県の教員育成指標を活用した、校内研修を通して—

椛島 政彦 (信州大学大学院・院生)

4) 10:30～11:00

学校における保護者トラブルの現状と課題

—教員アンケート調査の分析を通して—

和井田 節子 (共栄大学)

5) 11:00～11:30

アクション・リサーチの手法を用いた若手教員の学級経営支援プログラムの開発と

その運用に関する実証的研究

安藤 拓也 (帝京大学大学院・院生)

自由研究発表1-(4)

司会 菅原 至(上越教育大学)

釜田 聡(上越教育大学)

1) 9:00~9:30

「学校体験活動」と「教育実習事前指導」を、「教育実習」にどのように生かし繋げるか
ー「教科横断的な視点」を踏まえながらー

橘田重男(静岡福祉大学)

2) 9:30~10:00

グループディスカッションを円滑に進行するためのワークシート活用方法

松崎 陽子(仙台青葉学院短大)

3) 10:00~10:30

「持続可能な社会の創り手」を育成するための大学教育での実践

ー教員養成課程における「道徳科とESD」との関係ー

中井 精一(大阪教育大学)

4) 10:30~11:00

小中学校・教育委員会へのインタビューからみる教育実習における課題

ー学校インターンシップの展開に向けてー

○枝元 香菜子(金沢学院大学) 山本 礼二(目白大学)

峯村 恒平(目白大学) 藤谷 哲(目白大学)

渡邊 はるか(目白大学)

5) 11:00~11:30

教職等履修学生の教育実践効力感の尺度開発に関する予備的研究

○渡邊 はるか(目白大学) 枝元 香菜子(金沢学院大学)

藤谷 哲(目白大学) 峯村 恒平(目白大学)

山本 礼二(目白大学)

自由研究発表1-(5)

司会 松井 千鶴子(上越教育大学)
山本 幸子(那須市教育委員会)

1) 9:00～9:30

学校における「福祉的機能」の意義と現代的課題

栗原 千春(東京学芸大学大学院・院生)

2) 9:30～10:00

学校外の子どもの居場所活動からみた学校教育の一考察

竹澤 賢樹(金沢学院大学)

3) 10:00～10:30

自己肯定感向上に、コミュニケーション能力活用学習が与える影響の考察

—小学校におけるPBLを活用した授業実践を通して—

武田 昌之(信州大学大学院・院生)

4) 10:30～11:00

学校法における教育基本法と子どもの権利条約の位置づけ

佐々木 幸寿(東京学芸大学)

5) 11:00～11:30

外部評価会議での質問に対する回答に生じる問題の構造に関する考察

山崎 保寿(松本大学)

自由研究発表1-(6)

司会 安藤 雅之(常葉大学)
木村 昭雄(横浜市立下永谷小学校)

1) 9:00～9:30

学びに向かう力を育む授業の創造
小松 千草(帝京大学教職大学院・院生)

2) 9:30～10:00

総合的な探究の時間における探究課題設定
ー現代的な諸課題とESDの関連付けに着目してー
祐岡 武志(阪南大学)

3) 10:00～10:30

地域の教育力を生かした総合学習の展開
ージャムづくりの学習を通してー
木村 昭雄(横浜市立下永谷小学校)

4) 10:30～11:00

新高等学校学習指導要領の特別活動等における
人間としての在り方生き方に関する教育の一考察
長島 利行(茨城県教育庁学校教育部高校教育課)

5) 11:00～11:30

教育カウンセリングの特質を活かしたキャリア教育の実践Ⅱ
ー自律性伸張を促す「マイチェックシート」の活用事例ー
柳瀬 啓史(高知・公立学校教諭)

自由研究発表1-(7)

司会 南雲 まき (金沢学院大学)
林 明煌 (国立嘉義大学)

1) 9:00～9:30

台湾における応用日語系大学生の成功原因帰属、
学習ストラテジーと日本語能力に関する相関的研究
林 明煌 (国立嘉義大学)

2) 9:30～10:00

台湾における小学校国語教科書第1冊の写字の選択と実践
林 于弘 (国立台北教育大学)

3) 10:00～10:30

異なる種類のアニメを生かした高校の科学カリキュラムの学習効果に関する比較的研究
蔡 秉宸 (国立嘉義大学大学院・院生)

4) 10:30～11:00

台湾小学校における異学年授業の実施と反省
—ある遠隔小学校を例に—
洪 千恵 (国立嘉義大学大学院・院生)

5) 11:00～11:30

多文化共生に向けてのことばの教育の在り方について
—地域日本語教室における異文化間誤解事例を活用した教材開発—
周 勝男 (兵庫教育大学大学院・院生)

自由研究発表1-(8)

司会 桂田 愛(台湾静宜大学)
牛 玄(東京学芸大学大学院・院生)

1) 9:00~9:30

日本の義務教育における「教育機会確保法」の意義と
義務教育法制のアンバンドル化に関する総合的研究

牛 玄(東京学芸大学大学院・院生)

2) 9:30~10:00

心身障害者家庭と社会福祉事業担当指導員との協力関係

程 恩蓓(国立嘉義大学大学院・院生)

3) 10:00~10:30

注意欠陥・多動性障害(ADHD)と強迫性障害(OCD)に併発したトゥレット障害(Tourette's Syndrome)の1例

章 秉純(国立嘉義大学大学院・院生)

4) 10:30~11:00

留学生ボランティア活動のグローバル人材育成への貢献

ー日本籍留学生を例にー

○桂田 愛(台湾静宜大学)

王 金國(台湾國立台中教育大学)

5) 11:00~11:30

School Donation: Strategies adopted by School Principals in Taiwan

○何 宣甫(国立嘉義大学)

黃葦婷(University College London Institute of Education, UK)

胡甜菱(Pennsylvania State University, USA)

定 期 総 会

8 月 3 日(土)

12:40~13:25

4 号館 講堂

日本学校教育学会支援事業 算数・数学学力向上研修会について

南浦 元 (岩手県 一関市教育委員会)

1. 研究の背景・目的

一関市では教育基本法に基づき、2016 年度から 2025 年度までの 10 年間の一関市教育振興基本計画を策定し取り組んでまいりました。令和元年度は、前期計画 4 年目となります。

この計画の目標に掲げた「学びの風土を礎に 心豊かにたくましく 郷土の誇りを未来につなぐ 一関の人づくり」の実現に向けて、3つの基本方向(1)社会を生き抜く力を育む学校教育の充実、(2)ともに学び、まちとひとをつくる社会教育の推進、(3)誇りと愛着を醸成する文化の継承を定め、四つのプロジェクト①ことばを大切にする教育プロジェクト、②グローバル人材育成プロジェクト、③学校と地域の協働推進プロジェクト、④世界遺産拡張登録推進プロジェクトを重点としながら、16の基本施策の着実な推進を図ってまいりました。

日本学校教育学会支援事業算数・数学学力向上研修会は、この基本施策「確かな学力を育む教育の推進」の中核となる事業です。

また、一関市は和算のふるさととしても知られ、一関市にある算額の数、市町村では全国 1 位の 67 枚を有しています。一関博物館が行っている「和算に挑戦」は、毎年好評を博しており、全国から 1200 件以上も応募があります。数学が古くから盛んな土地柄ということもあり、平成 27 年度から学力向上重点科目として「算数・数学」を設定し、学力向上のために、算数・数学を担当する教師の指導力向上・授業改善に取り組んでまいりました。

2. 研究の概要

教科指導に定評がある算数・数学の教員(東京学芸大学附属校教員)による師範授業等を通して、市内小・中学校教員の授業改善、指導力向上、併せて、学力保障に向けた学校の組織力の強化を図る。特に算数・数学の授業改善、指導力向上を図る。

3. まとめ

全国学力・学習状況調査での子どもたちへのアンケートでは、児童・生徒の意欲面での向上が数値として表れてきました。また、学力向上研修会の事後アンケートでは、教師の授業改善に係わる意欲の向上が見られました。東京学芸大学附属校教員の示範授業によって、目標とする授業モデルが明確になり、一関市として目指している「テンポが良く」「構造的な板書」によってつくられる授業に近づこうと努力する教師が増えてきております。

基 調 講 演

題 目「新時代に向けての教育改革を考える」

講 師： 国立教育政策研究所 所長 常 盤 豊 氏

【要 旨】

グローバル化の進展、AIをはじめとした高度情報通信革命などにより、社会構造の急速な変革が進む中で、新時代に向けて教育が重視すべきものは何か。新学習指導要領で示された「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」が目指すものは何か。それをどう受け止め、どう実践していくのか。参加の皆様とともに考えていくための論点を提示する機会としたい。

公開ミニ・シンポジウム(第1会場)

新時代を意識した学校教育

—共生社会を創るための学校教育の在り方を問う—

【趣旨】

グローバル化が進み、現在は、異文化・多文化理解や、地球上に存在する様々な人類的課題を知ることが、一般教養として必要不可欠な時代となった。地球的課題を理解し、より良い地域社会・日本・世界を考え、他者と共に社会を再構築するためには、学校教育において、どのような国際理解教育に取り組んでいくのがよいか考えることが必要である。

国際理解教育とは、一人の市民として、より良い未来をみんなで創造していく力を培うことをめざす教育だと考える。こうした教育を実践するには、異文化への対応や世界に存在する問題・課題の解決など、答えのない問いを子供と教師がともに考えることが求められる。それには、より良い答え・より良い未来に向かって探求し考え続ける力、行動する力を主体的で対話的な深い学びを通して教科横断的に培っていくことが重要である。

こうした学びを学校教育と連携しながら実践している JICA 北陸は、地域に開かれた教育の一翼を担う団体として、一人一人の学び、意識、行動を変えていく素材となる開発途上国に関する知見・経験・教材などを地域社会・学校現場に還元している。本シンポジウムでは、この JICA 北陸の取り組み、小学校での具体的実践と子供の変容、豊富な実践に基づく研究者の視点の3つの方向から、豊かな共生社会の構築に向けて、答えのない課題を子供とともに考えるグローバル時代の中の学校教育の役割について考えていきたい。

【シンポジスト】

「国際理解を取り入れた学校教育 国際協力を実施する団体の視点から」

武田 さやか氏 (独立行政法人 国際協力機構 北陸センター)

「新時代を生きる子どもたちの力を育てる ～国際理解教育を通して～」

北 洋輔氏 (石川県白山市立蝶屋小学校 教諭)

「育成すべき資質・能力の三つの柱」とグローバル時代の学校教育—学びに向かう力・人間性等を中心に—

釜田 聡氏 (上越教育大学 教授)

司会：菊地 和彦 (独立行政法人 国際協力機構 北陸センター 所長)

公開ミニ・シンポジウム(第2会場)

新時代の教職員に求められる資質・能力

～学校教育・事務職員の立場から～

【趣旨】

新学習指導要領を関しては、道徳の教科化、プログラミング教育の必修化、外国語教育の充実などが話題となった。しかし、従来の各教科等については、ともに基本的には従来のものを踏襲しており、改定自体の変化はこれまでの改定に比べて小さいとも言える。

ただ、学力については質的变化とさらなる充実を目指したものとなっている。それは従来からの内容(コンテンツ: content)中心の学力観(コンテンツ・ベース教育)に加え、資質・能力(Competency)を基盤とする学力観(コンピテンシー・ベース教育)の2つのバランスのとれた教育への志向である。この背景には OECD の PISA 調査等の資質・能力を基盤とするグローバル・スタンダードとしての学力観の動向がある。

さらにグローバル時代には、多文化共生教育の視点の重要性が高まっていく。子供たちに新しい時代にふさわしい資質・能力を育成するためには、それを導く教員に求められる資質・能力についての共通理解が不可欠である。本シンポジウムでは、学校教育・学校事務職員・行政の立場から、新時代の教職員に求められる資質・能力について議論を深める。

【シンポジスト】

「グローバル化が進む地方の小・中学校教員に必要な研修の在り方」

嶋 耕二氏 (石川県教育委員会学校指導課 担当課長: 小中学校教育グループリーダー)

「学校事務職員の視点から」

西念 佑馬氏 (金沢学院大学財務部部長補佐 兼 教職センター課長)

「行政および学校教育の視点から」

藤平 敦氏 (日本大学文理学部 教授/教職センター副センター長、前文部科学省国立教育政策研究所総括研究官)

司会: 奥泉 敦司 (金沢学院大学文学部教育学科 講師)

公開ミニ・シンポジウム(第3会場)

新時代の言語教育

【趣旨】

「新時代の言語教育」をテーマとして、不確実性の時代を生きていく子どもたちにとって望ましい英語教育の在り方について論ずる。小学校外国語の教科調査官である直山木綿子氏による講演及び直山氏とパネリストによる討議を通して、日本の英語教育の根幹となるものは何か、各学校種の連携・接続のあり方、そのためにできることなどについて理解と考察を深める。行政、現場、それぞれの立場・視点から、言語能力のみならずコミュニケーションの根幹にかかわる、人と人とが共に生きるための対話力、他者理解、自己表現力、グローバル時代に求められる力などを、日本の英語教育のなかでどのように育んでいくかを考え、深める場としたい。

【シンポジスト】

「求められる日本の英語教育のあり方」

直山 木綿子氏 (文部科学省 初等中等教育局 視学官及び、外国語担当教科調査官)

「小学校校長の立場から」

紺村 由紀子氏 (白山市立東明小学校 校長)

「高校教員の立場から」

荒納 郁美氏 (金沢大学附属高等学校 英語科主任)

司会: 村松 麻里 (金沢学院大学文学部教育学科 講師)

情 報 交 換 会

8 月 3 日(土)

18:20～19:50

KKR ホテル金沢

☆大会会場から情報交換会会場(KKR ホテル金沢)
までシャトルバスを運行いたします。

大会 2 日目
8 月 4 日 (日)

自由研究発表2-(1)

司会 原田 信之(名古屋市立大学)
鈴木 久米男(岩手大学)

1) 8:50～9:20

「発信型」の英語教育実践報告(中1から高3までのアプローチ例)
伊藤 清(名古屋中学校)

2) 9:20～9:50

小学校1年生における参加型人権学習の学習成果に関する一考察
一人権教育を通じて育てたい資質・能力の構成要素の抽出を通して—
河野辺 貴則(兵庫教育大学大学院・院生)

3) 9:50～10:20

アメリカ公立小学校の言語教育
—他者性・自主性が生きる多様なカリキュラムに着目して—
村松 麻里(金沢学院大学)

自由研究発表2－(2)

司会 林 泰成 (上越教育大学)

安藤 知子 (上越教育大学)

1) 8:50～9:20

data から見る現代の中高生の読書活動の実際

腰越 滋 (東京学芸大学)

2) 9:20～9:50

正解のない問いを考える子どもを育てる

—自由に対話できる授業を中心に—

北 洋輔 (白山市立蝶屋小学校)

3) 9:50～10:20

「声をそろえる」ことの学級経営的意義

—A. シュッツの「我々関係」を手がかりに—

山田 雅彦 (東京学芸大学)

自由研究発表2－(3)

司会 黒羽 正見(群馬大学)

堀井 啓幸(常葉大学)

1) 8:50～9:20

美術館が行う学校向け鑑賞プログラムの全国的傾向に関する一考察

吉田 悠夏(上越教育大学大学院・院生)

2) 9:20～9:50

音楽授業における『苦手意識』へのアプローチ

－図形楽譜を用いた授業実践から－

湯澤 卓(上越市立春日小学校)

3) 9:50～10:20

教育における表現の意義についての考察

－第二次世界大戦下のポーランドにおける子どもの表現を手掛かりに－

南雲 まき(金沢学院大学)

自由研究発表2－(4)

司会 瀬戸 健 (富山国際大学)
祐岡 武志 (阪南大学)

1) 8:50～9:20

高等学校と警察が連携して行うボランティア活動に関する研究(3)
—熊本県玉名市の高校生防犯ボランティア組織ボウハンティアの実践に基づく考察—
林 幸克 (明治大学)

2) 9:20～9:50

子どもの命を守る学校と家庭の連携に関する研究
—学校事故裁判例に示す保護者(親権者)の責任に着目して—
割田 のどか (上越教育大学大学院・院生)

3) 9:50～10:20

安全学習についての総合的研究
—学校事故裁判事例を教材化した授業実践の可能性と課題—
○新福 悦郎 (石巻専修大学)
蜂須賀 洋一 (上越教育大学)

自由研究発表2－(5)

司会 田島 弘司(上越教育大学)
山本 礼二(目白大学)

1) 8:50～9:20

持続可能な社会づくりに向けた資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの研究
－「グローバル」な視点を育成する単元開発と実践・評価－
勝山 優子(信州大学大学院・院生)

2) 9:20～9:50

小さな村の教育改革
－G7サミットのころみに着目して－
和井田 清司(武蔵大学)

3) 9:50～10:20

多様性を生かした遊び心のある学びのデザイン
－障害をもつ児童と共に創る「深い学び」－
幸田 隆(豊田市立東保見小学校)

課題研究「教師教育の高度化③ 教師教育の高度化と地域教育課題への対応—教職大学院は地域の期待に応えているか?」

課題研究趣旨:

平成27年12月の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」では、各都道府県等に設置された協議会（教員育成協議会）について、教育委員会と大学等が相互に議論し、養成や研修の内容を調整するための制度としており、更に、地域の実情に応じたものとするとともに、各主体の自主性・自律性が生かされる仕組みとして捉えている。同答申では、協議会において検討される教員育成指標の目的について、「教職キャリア全体を俯瞰しつつ、教員がキャリアステージに応じて身に付けるべき資質や能力の明確化」としており、また、「各地域の実情に応じて策定する」こととし、「国は各地域の自主性、自律性に配慮する」としている。すなわち、各地域において、それぞれの実情等に基づき、教員養成段階から生涯にわたる教員の学びを関連付けて自律的に運用することを求めるものである。また、「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて—国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書—」（平成29年8月29日）においても、地域ニーズへの対応として、国立の教員養成大学・学部等は「教育委員会等との『協議会』に主体的に参画し、教員のライフステージに応じた資質向上に体系的に関わることや、教育委員会や学校現場との人事交流等を通じて、地域の教育委員会等と連携しつつ、地域が求める教員を的確に把握し、それを確実に反映した教員の養成・研修に取り組むこと」としている。

それぞれの地域における教育委員会と大学の協働、地域密着型の教員養成・研修の必要性やニーズの高まりについては、上記答申や報告書において言及される以前から各大学において認識されていることでもあった。とりわけ、教職大学院に対しては、教育委員会との協働により策定する教員育成指標や地域の特性を踏まえつつ、その地域における教員のキャリアステージに応じた資質向上に資するようなカリキュラムの提供等により、教員養成からの教職キャリア全体に渡る学びを支援する方策を検討するべきである（継続的な学びにつながる制度設計）という要請がある。すなわち、教職大学院における教師教育の高度化の前提として教育委員会との協働による地域教育課題への取組のあり様が問われている。ただ、その一方で、地域教育課題に対応できる確たる組織・体制が大学側になれば、連携という名の下に地域や行政の需要に応じるだけの下請けのような存在になってしまう懸念も示されており、このような動向に対応した教職大学院の在り方そのものも問われているのである。本課題研究では、課題研究3年目の区切りとして、教職大学院が教育委員会との密接な連携により地域の教員養成・研修の中核となるための方法や課題等について明らかにすると共に、今後の教職大学院の方向性について検討し、提案したい。

【コーディネーター・司会】

堀井 啓幸（常葉大学）

根津 朋実（筑波大学）

【パネリスト】

牛渡 淳 先生（仙台白百合女子大学）

紅林 伸幸 先生（常葉大学教職大学院）

佐々木 幸寿 先生（東京学芸大学）

協賛広告一覧（掲載順）

株式会社 教育開発研究所 様

一般社団法人 教育調査研究所 様

教育出版株式会社 様

株式会社 うつのみや 様

株式会社 三恵社 様

株式会社 学文社 様

株式会社 培風館 様

金沢学遊 様

株式会社 ミネルヴァ書房 様

学習指導要領の 読み方・ 活かし方

2020年
学習指導要領
解説の決定版

学習指導要領を
「使いこなす」ための8章

学習指導要領改訂に携わった
文部科学省担当が、
基礎から解説

合田哲雄
文部科学省初等中等教育局財務課長
兼 教育開発研究所 所長



2020年
学習指導要領
解説の決定版

学習指導要領の 読み方・ 活かし方

学習指導要領を「使いこなす」ための8章

★改訂に携わった文科省担当者がわかりやすく解説！

〔著〕合田哲雄（文部科学省初等中等教育局財務課長） A5判／190頁／定価（本体1,600円＋税）

教育開発研究所 東京都文京区本郷2-15-13 TEL:03-3815-7041

注文は
こちら→



月刊「教育展望」

毎月1日発行、A5判、64頁、448円＋税

2019年 特集

9月号 資質・能力を育む言語能力の育成
7・8月合併号 AI時代の教育

― AI時代に身につけたい資質・能力とは ―

6月号 新学習指導要領における学習評価について

5月号 主体的・対話的で深い学びが授業を変える

4月号 カリキュラム・マネジメントが学校を変える

3月号 資質・能力を伸ばす評価活動

1・2月合併号 『教育展望』創刊700号を語る

2018年 特集

12月号 第47回教育展望セミナー 分科会報告

11月号 第47回教育展望セミナー 全体会報告

10月号 教育の情報化の動向と課題

9月号 巨大地震に備える防災教育の視点

7・8月合併号 改めて問う、深い学びとは

6月号 学校における働き方改革を探る

5月号 子どものいじめ・自殺問題と学校教育

4月号 新しい学校文化の創造

3月号 新学習指導要領から見える新しい授業像

1・2月合併号 明日をみぎす日本の教育像

「教育展望」臨時増刊

セミナー研究討議資料
A5判、2381円＋税

No.51（第48回教育展望セミナー）

2019年7月発行、124頁

これからの時代に向けた教育の改革と創造

― AIの時代を視野に入れた教師力 ―

No.50（第47回教育展望セミナー）

2018年7月発行、124頁

資質・能力を育成する教育課程の編成と実施Ⅱ

一般財団法人

教育調査研究所

〔理事長 新井郁男〕

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10
TEL: 03-3238-6974 FAX: 03-3238-6975
E-Mail: chouken@estate.ocn.ne.jp

事典 持続可能な社会と教育

日本環境教育学会 日本国際理解教育学会
日本社会教育学会 日本学校教育学会
SDGs市民社会ネットワーク
グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 編

A5判/256頁 定価：本体2,800円＋税

何が課題であり、今、何をすべきなのかを考
えるための1冊。全141項目。

[持続可能な社会の構築] [気候変動とエネル
ギー] [生態系と物質循環] [社会的・文化的課
題] [地域をめぐる課題と取り組み] [行政・産業
界等の取り組み] [教育政策の課題] [教育への
アプローチ] [教育方法の革新]について幅広
く取り上げ解説。

事典 持続可能な社会と 教育

日本環境教育学会
日本国際理解教育学会
日本社会教育学会
日本学校教育学会
SDGs市民社会ネットワーク
グローバル・コンパクト・
ネットワーク・ジャパン 編



5771100

教育の今とこれからを 読み解く57の視点

編集代表：多田孝志
編集委員：和井田清司・佐々木幸寿・青木一・
金井香里・北田佳子・黒田友紀

A5判/216頁
定価：本体2,400円＋税

57の視点(キーワード)
から、学校・子ども・教育
制度・カリキュラム・教
育方法の現在と未来を
読み解く。



対話型授業の理論と実践 深い思考を生起させる12の要件

多田孝志 著 四六判/256頁 定価：本体2,200円＋税

一人一人の学習者が、対話をする喜びを存分
に感得しつつ、自己の資質・能力を事実として
伸長させる「対話型授業」を、どう実現するか。
「深い思考を生起させる対話型授業の実践の
ための12の要件」を紹介しつつ説き明かす。



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10
TEL: 03-3238-6965 FAX: 03-3238-6999
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



こちらから
弊社サイトに
アクセスできます。



株式
会社

知性と情操をおとどける

うつのみや

金沢香林坊店

[http://www.utsunomiya.co.jp/
order@utsunomiya.co.jp](http://www.utsunomiya.co.jp/order@utsunomiya.co.jp)
☎076(234)8111 FAX:076(234)8131

本・文具・DVD・CD



金沢小立野店 ☎076(224)4051

金沢工大前店 ☎076(227)0999

金沢百番街店 ☎076(260)3818

野々市上林店 ☎076(246)4288

御経塚ミュージン ☎076(240)4067

小松城南店 ☎0761(23)2777

セールスセンター ☎076(259)1000

金沢医科大学病院店 ☎076(286)2211 内線 7126

教育研究支援企業(株)三恵社
少発行出版・少部数テキスト出版
出版2,500タイトルを超える実績。

少部数テキスト出版

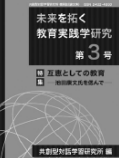
昨今、少子化で大学の授業を受ける生徒数が減ってきています。弊社の少部数テキスト出版では受講生徒数が少なくても先生の費用負担なしで正式な出版をご提案致します。
ISBNコードを取得して、アマゾンで全国販売もできます。先生の授業に合わせたテキストを作りませんか？

少発行出版

一般的な自費出版では数百万もの費用がかかってしまいます。しかし、弊社では三十万円前後の費用で正式な出版ができ、絶版なしでロングテールで販売できる仕組みをご提案します。少部数での出版が可能である為、ご予算に応じてご提案ができますし、少部数でも全国への販売ができます。

- Eメール入稿だけでテキスト制作から出版まで対応！
- カラーページの少部数も安価で対応！

出版物事例

 中等社会科の研究 10周年記念図書 定価：¥3,200+税 編著者：和井田 清司 大野 一夫 小林 汎 田中 祐児	 未来へ紡ぐ 児童教育学 定価：¥2,315+税 著者：目白大学人間学部 児童教育学科	 未来を拓く 教育実践学 第3号 定価：¥1,667+税 編著者：共創型対話学習 研究所	 コミュニティ・スクールを 持続可能にする 地域コーディネーターの キックオフ 定価：¥1,574+税 著者：前川 浩一 青木 一
--	--	--	---

- 超極少部数の論文集・報告書等にも対応！
- 全国250大学でご利用頂いている実績あり！

●詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.sankeisha.com>

●詳しくご説明させていただきます。
E-mail info@sankeisha.com

株式会社 三恵社
出版事業部

本社
☎052-915-5211
〒462-0056 名古屋市中区丸の内2-24-1
FAX 052-915-5019

東京営業所
☎03-6657-0970
〒132-0035 東京都江戸川区平井5-14-2-401
FAX.03-6657-0971

J.ロックランに学ぶ 教師教育とセルフスタディ —教師を教育する人のために—

ジョン・ロックラン 監修/原著 武田信子 監修/解説
小田郁予 編集代表 齋藤真宏・佐々木弘記 編

国際的に教師教育をリードしてきたジョン・ロックランの業績をわかりやすく紹介。従来の教師教育に対して海外で数十年もかかってなされた問題提起の1冊。

本体
2500円



早期田教育叢書 37 学校マネジメントの 視点から見た学校教育研究 —優れた教師を目指して— 三村隆男 編著

学校教育について学ぶべき項目を18に分け、学習指導要領に準拠し解説。教育活動を俯瞰的にながめるための「学校マネジメントの視点」を取り入れた。

本体
2800円



カラフルな学校づくり —ESD実践と校長マインド—

住田昌治 著

横浜の普通の公立小学校をみちがえるほど元気にした住田校長が多様性時代の学校づくりを語る。すべての教職員に読んでほしい公立小学校の挑戦。

本体
2000円



リフレクション入門

一般社団法人
学び続ける教育者
のための協会(REFLECT) 編著

より深い、より主体的な学びを引き出す、F.コルトハーヘンの「リフレクション」の理論と実践を紹介。リフレクションを促す側(教育者)の視点からも解説。

本体
1200円



近刊

国際バカロレア教育と教員養成 —国際バカロレア教師をめざす人のために—

東京学芸大学国際バカロレア教育研究会 編
佐々木幸寿・赤羽寿夫・D.シャミ・原健二 編著

●予価2200円 180頁

小学校におけるプログラミング教育 の理論と実践

東京学芸大学プログラミング教育研究会 編
宮寺庸造・植山淳雄・南葉宗弘・北澤武・加藤直樹 著

●予価2000円 160頁

教師のための教育学シリーズ 3

学校法 第二版

佐々木幸寿 編著

●本体2500円 256頁

SDGs時代の教育 —すべての人に 質の高い学びの機会を—

北村友人・佐藤真久・佐藤学 編著 ●本体3000円 304頁

よい授業とは何か

川田龍哉 著

●本体2000円 264頁

山と湖の小さな町の大きな挑戦

—信濃町の小中一貫教育の取り組み—

伏木久始・幸村均 著

●本体2000円 208頁

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigy@gakubunsha.com

教職シリーズ3

教育内容・方法 改訂版

根津朋実・樋口直宏 共編著 A5・240頁・2000円

教育職員免許法施行規則で定められている「教育課程及び指導法に関する科目」に相当するテキスト・参考書。学習指導要領改訂、教職課程コアカリキュラムの決定をふまえて内容の追加や更新を行っている。

教職シリーズ 新井邦二郎・新井保幸 監修／A5

- | | | |
|----------|---------------|-------|
| 1. 教職論 | 新井保幸・江口勇治 共編著 | 2400円 |
| 2. 教育基礎学 | 新井保幸 編著 | 2300円 |
| 4. 道徳教育論 | 高橋 勝 編著 | 2400円 |
| 5. 特別活動 | 林 尚示 編著 | 1900円 |
| 7. 進路指導 | 新井邦二郎 編 | 1700円 |

対人関係のスキルを学ぶ ワークブック

平木典子 監修／宮崎圭子・柴橋祐子 共著

B5・112頁 1900円

対人関係のスキルアップを目的としたワークブック。日常会話を例にした様々なワークを通じて、相手にさわやかな印象を与えるような自己表現(アサーション)をやさしく、実践的に学べるように工夫している。

グッドコーチになるためのココロエ

＝Webアシスト付

平野裕一・土屋裕睦・荒井弘和 共編

A5・232頁・近刊

コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラムに基づき、コーチング論、対自分力と対他者力、各種トレーニング、アスリートの健康、現場のマネジメント等、スポーツ指導に必要な基礎知識をやさしく解説する。

新しい特別支援教育のかたち

＝インクルーシブ教育の実現に向けて

吉利宗久・是永かな子・大沼直樹 共編著

A5・304頁 2800円

障害者権利条約を念頭におき、インクルーシブ教育の実現に向けて必要な事柄を様々な視点から解説したテキスト。制度的枠組みと新たな国際的動向、障害ごとに必要な実践的課題等について実態を踏まえて紹介する。

APA心理学大辞典

G.R.ファンデンボス 監修／繁樹算男・四本裕子 監訳

B5・1056頁 8000円

アメリカ心理学会発行 *APA Dictionary of Psychology* の日本語翻訳版。収録項目数および内容において、現時点で最高水準のものであり、これまでの日本の心理学辞典では取り扱われることのない多くの項目も収載。

〒102-8260 東京都千代田区九段南4-3-12
TEL (03) 3262-5270 FAX (03) 3262-5276

培風館

表示は〈本体価格〉別途消費税がかかります
<http://www.baifukan.co.jp>

金沢で学んで 遊んで四半世紀...



◆家庭学習相談



家庭学習における課題を見つけて、具体的な改善策をご提案いたします。じっくりお話を伺いながら、より効果的な家庭学習が行えるよう学習支援開始後もサポート致します。不登校生の支援も行います。

◆家庭学習支援



ご家庭へ伺い1対1で家庭学習の見直しと学びの基礎を指導します。金沢学遊の指導では、言葉の理解に重点を置くことで、生徒が自分で教科書を読み、自分で問題文を理解することができるようになります。

これまで、学都金沢にて多くの学生達と共に学び続けて参りました。その数多の経験から、内申点や目先の点数に囚われていては受験に必要な「本当の学力」を培うことが難しいと考え、家庭学習・進路指導・キャリアアドバイスなど多方面から学びの基本を養うサポートを始めました。マンツーマンの学習指導を通して、子どもたちが学習と向き合う力だけでなく、自らが抱える課題や進路実現に向けて考え抜く力を育成します。

◆スポーツチームキャリアアドバイス



中学生以降、勉強やテストが気になりスポーツを中断してしまうこともあります。金沢学遊では学習とスポーツのシナジー効果を生み出し、スポーツにも集中して取り組める環境作りをお手伝いいたします。

◆企業や地域とのコラボイベント



キャリア体験を主とした教育イベントを企画します。里山や金沢学遊ファーム等での農業体験や企業とコラボした教育イベントを提案します。H30年実績：里山のフィールドワーク、里山の竹で門松づくり体験



代表：小矢田 学紀 金沢学遊公式HP
〒921-8133
石川県金沢市四十万町イ52-2
TEL：090-9767-0584
MAIL：kanazawagakuyu@gmail.com
<http://kanazawagakuyu.com/>



金沢学遊 検索

あの子どもたちが変わった驚きの授業

木原雅子著 ● 授業崩壊を立て直すファシリテーション

1800円

〈既刊〉あの子どもたちが生まれ変わった驚きの授業

木原雅子著 ● T中学校652日物語 * 四六判192頁 1800円 * 3刷

学校管理職養成講座

スクールリーダー育成のための12講

篠原清昭監修 学校管理職養成研究会編

2800円

ここから始める「憲法学習」の授業

長瀬拓也／杉浦真理／奥野浩之／渡辺暁彦／松森靖行編著 ● 児童生徒の深く豊かな学びのために 実践で役立つ資料やヒントが満載！ 2600円

探究の過程 すぐ実践できる情報活用スキル55

塩谷京子著 ● 単元シートを活用した授業づくり

2400円

「学校」を生きる人々のナラティブ

山本智子編著 ● 子どもと教師・スクールカウンセラー・保護者の心のずれ 見えづらい現実、埋もれている物語とは。 2600円

初等外国語教育

MINERVAはじめて学ぶ教科教育⑤

吉田武男監修 卯城祐司編著

2200円

初等外国語教育

新しい教職教育講座教科教育編⑩

原 清治／春日井敏之／篠原正典／森田真樹監修 湯川笑子編著

2000円

思春期のこころと身体Q&A (全5巻)

好評既刊

A5判美装カバー／各2200円

① 思春期

少年・少女の不思議のこころ

深尾憲一朗著

② 摂食障害

身体にすり替えられたこころの痛み

深井善光著

③ 摂食障害

身体にすり替えられたこころの痛み

深井善光著

④ 心身症

身体の病からみたこころの病

高尾龍雄編著

⑤ 発達障害

精神科医が語る病とともに生きる法

十一元三監修

崎濱盛三著

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 * 表示価格税別 目録呈
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/

日本学校教育学会第 34 回研究大会 プログラム

発行年月日 2019 年 7 月 16 日

発行・編集 日本学校教育学会第 34 回研究大会準備委員会

大会準備委員長 米澤 利明

副委員長 今田 晃一

事務局長 小嶋祐伺郎

副事務局長 西念 佑馬

〒920—1392 石川県金沢市末町 10

TEL. 076—229-8780 E-mail: jase2019@kanazawa-gu.ac.jp

共催 金沢学院大学

後援 金沢市教育委員会 JICA 北陸 北國新聞社 共創型対話学習研究所